

# 三小だより 6月号

## 子どもの安全について

校長 大鳥 清裕

今週に入って、過ごしやすい日が続きましたが、先週末ぐらには異常な高温の日が続きました。北海道の佐呂間町というところでは39.5度という5月の観測史上最高の気温を記録しました。これは、北海道でということではなく、全国でも5月の史上最高気温だそうです。地球温暖化、という言葉が思い浮かびますが、確かにここ数年、夏の暑さは「異常」という言葉を使ってもいいような状態が続いているように感じます。「昔はこんなふうじゃなかった。」というはある程度の年齢の大人なら誰もが思うことではないでしょうか。気温の高さと同時に、いわゆるゲリラ豪雨と言われる、局地的大雨も珍しいことではなくなりました。屋久島で5月の18日に降った大雨のため、登山者314名が山中で孤立し、翌日救助されたというニュースは、まだ記憶に新しいところです。幸い、大阪ではここまでニュースになるような災害は生じていませんが、これからの季節、いくら警戒をしてもし過ぎるということはない時期に入っていきます。熱中症の対策とともに、大雨による自然災害にも十分な警戒、対策を心がけていきたいと考えます。

さて、この4・5月でもう一つ気になったのが、交通事故のニュースです。4月19日、東京池袋で乗用車が歩行者をはね、親子2人が死亡、5月5日、神戸三宮で市営バスが歩行者をはね8人が死傷、5月17日には滋賀県大津市で、信号待ちをしていた保育園児の列に乗用車が突っ込み16人が死傷と、大きなニュースがたて続きに飛び込んできました。いずれも被害に遭われた方には過失はなく、きちんと守るべきことを守っておられたうえでの事故だということです。亡くなった方の無念さと、残された遺族の方の悲しみを思うと、いたたまれない思いがいたします。

本校の子どもたちも、登下校時、あるいは下校後遊びに出た際も、当然のように車の通る道路を利用して移動します。校区内でも結構交通量の多い道路もあり、子どもたちがそこを通ることもあるでしょう。警察庁の発表によりますと、小学生が歩行中の交通事故で亡くなったり重傷を負ったりする件数が最も多いのが5月だということです。これは、1年生が学校に慣れて一人で登下校を始めるのがこの時期だからだと考えられるそうです。また、時間帯では3時台から5時台が圧倒的に多くなっています。まさに、下校時～下校後外で遊んでいる時間帯です。そう考えると、ここまで、本校児童が大きな事故に遭うこともなく無事に過ごせているのは、何か本当にありがたい偶然のような気さえしてきます。

自分がいくら交通ルールを守っていても事故に遭うときはあってしまうのかもしれませんが、しかし、自己防衛の第一歩はやはり守るべきルールを守ることです、その上で、周囲の状況に気を配り、危険を予測してそれを回避する力をつけることが大切なのではないでしょうか。子どもたちにはそういったことを繰り返し指導していきたいと考えます。248名の南第三小生全員が、日々けがなく健やかに成長してくれることを願ってやみません。



### \*子どもの安全確保推進月間について\*

大阪府教育庁では6月を「子どもの安全確保推進月間」と定め、特に6月8日を「学校の安全確保・安全管理の日」とし、児童の安全確保に向けた取り組みの点検・強化を図ることとしております。本校でも上に述べたような件も含め、子どもの安全全般について、教職員全員で徹底していく所存です。

※ 以上の原稿を書き上げた後に、川崎での事件のニュースが入ってきました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、学校として、あらためて子どもの安全確保について問い直していきたいと思えます。